

令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

日 時：令和4年9月28日(水) 16:00 ~17:10

場 所：琉球大学病院がんセンター(ZOOM 会議)

出席者 11 名：笹良剛史（豊見城中央病院）、屋良尚美（県立中部病院）、野里栄治（北部地区医師会病院）、中村清哉（琉大病院）、中島信久（琉大病院）、安次富直美（琉大病院）、足立源樹（那覇市立病院）、三浦耕子（県立中部病院）、小波津真紀子（沖縄県健康長寿課）、名嘉真久美（がん患者会連合会）、増田昌人（琉大病院）

欠席者 2 名：酒井達也（八重山病院）、朝川恵利（宮古病院）

陪席者 3 名：有賀拓郎（琉大病院）、狩俣勇斗（琉大病院）、三井清美（琉大病院）

報告事項

1. 令和4年度 第1回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

野里委員より、資料1に基づき、令和4年度第1回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨の報告があった。中島委員より、報告事項 10. その他 について、議事要旨の訂正ではなく、会議内容についての訂正であり、どの様に対応していただいているか確認したいと依頼があった。増田委員より、確認後、文書にてご連絡致しますと回答があった。

2. 令和4年度 緩和ケア・在宅医療部会、在宅WG、研修WG 委員名簿

資料2に基づき、各委員の名簿について報告があった。

3. 令和4年度 第1回、第2回緩和ケア・在宅医療部会 在宅ワーキング議事要旨

資料3に基づき、令和4年度第1回、第2回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨が承認された。

4. 令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキング議事要旨

資料4に基づき、令和4年度第2回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨が承認された。

5. 令和4年度 緩和ケア研修会開催日程一覧表について

増田委員より、資料5に基づき、緩和ケア研修会の日程が報告された。現在のところ、琉球大学病院以外は対面開催とのことだった。

屋良委員より、10月22日(土)開催の県立中部病院の緩和ケア研修会については八重山病院と共同開催、宮古病院とも別日程で共同開催を予定していると報告があった。

6. 令和4年度 緩和ケア研修会の報告書について

中村委員より、資料6-1に基づき、琉球大学病院主催第1回沖縄県緩和ケア研修会 2022（9月4日(日)開催）について報告があった。WEB開催ではあったが、台風が重なったため、開催の判断の有無や、また、受講生の参加態度について課題が残った。利点としては、感染可能性がないため大人数の受講者でも対応ができ、今後もWEB中心に開催していきたいと思っているとの事だった。

足立委員より、資料6-2に基づき、那覇市立病院主催第2回沖縄県緩和ケア研修会 2022（9月10日(土)開催）について報告があった。当日2名の欠席があり、欠席理由について、1名はe-learningの受講が終わらなかった、1名はコロナに感染したためとの事だった。また、当日の

検温で37℃を超えている参加者がおり、クラスターの起こっていた科に所属していたため、N-95のマスクを着用させ、抗原検査を行い、結果が出るまで他の参加者と離し受講させた。検査結果は陰性だったが、N-95のマスクはそのまま着け参加させたとの事だった。また、その後も発症はしなかったとの事だった。

7. 令和4年度 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会(E-FIELD)について

資料7に基づき、今年度のE-FIELD開催について笹良委員より報告があった。来年度の開催方法については未定だが、今年度はWEB開催となる。プログラムについて、10月開催される地域の研修会については従来のもと同様だが、後半は新しいプログラムで提供することになっているとの事だった。参加医療機関については現在のところ未確認であるとの事。また、指導者研修会を開催し、3年後をめどに各都道府県でファシリテーターや講師を10名程育成し、その後、事業を都道府県へおろすような形で進んでいるとの事だった。指導者研修会を受講頂く方の人選についてはこれから進めていくと報告があった。

8. 日本緩和医療学会 第4回九州支部学術大会について

笹良委員より、日本緩和医療学会 第4回九州支部学術大会のホームページより報告があった。11月26日(土)に大分でハイブリッド形式の開催となっており、昨日査読作業が始まったところとの事だった。<http://square.umin.ac.jp/kanwa-ks4/>

9. 「沖縄県内のがんに関する医療情報」のがんじゅうネット掲載について

笹良委員より、プロフェッショナル向けの情報収集・掲載について、中島委員へご協力いただきこれから進めていくところだと報告があった。中島委員より、教育ツールの他に、困った時の相談ができるような機能や、緩和ケアに関する研修会や研究会をまとめたサイトの作成を進めており、来年度の間あたりにはサイトを立ち上げている予定と報告があった。

10. 2022年度緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者研修会について

増田委員より、資料9に基づき報告があった。現在、琉球大学病院での緩和ケア指導者修了者は以前に比べ少なくなっており、みなさまの病院でも現在在籍している指導者修了者の確認と後継者の育成をお願いします、と依頼があった。笹良委員より、これから指導者研修会を受講される方について今後の活動に役立つこともあると思うので、共有をしていただきたいと依頼があった。

11. 2022年度国立がん研究センターが実施するがん診療に携わる医療従事者等に対する研修について

増田委員より資料9に基づき国立がん研究センターで行っている研修会について情報提供があり、拠点病院でなくても受講できるものもあるので受講して下さいと依頼があった。

12. 第2回沖縄緩和ケア研究会学術大会について

中島委員より、資料10に基づき10月10日(月/祝)に開催される「第2回沖縄緩和ケア研究会学術大会」について報告があった。オンラインで開催、参加費は無料とのこと。シンポジウムの「コロナ禍における緩和ケアの取り組み方」では緩和ケア病棟の医師、看護師、在宅診療所の医師、急性期病院側からの発表をしていただく。ぜひご参加下さいと依頼があった。

13. その他

特になし

協議事項

1. 痛みのスクリーニングとモニタリングデータ抽出について

有賀先生より、資料10に基づき報告があった。結果より、今後のがんのつらさのスクリーニングと緩和ケアの介入は今後も続けた方がよいことと、現在行っている毎日の記載を当院のモデル病床だと2～3日またはそれ以下、項目に関しても減らした方がよいと考察されるとの事だった。詳細については第2回沖縄緩和ケア研究会学術大会で報告するので是非ご参加くださいと依頼があった。増田委員より、項目数を維持して週に2～3日にするのか、または項目数を減らして毎日聞くのか、どちらが良いのかと質問があった。有賀先生より、今回の研究からすると、項目数も頻度も減らした方がよいと結果が出ていると回答があった。また、結果からすると標準化ツールのIPOSの使用が良いと個人的に感じているとの事だった。中島委員より、他者評価的に言うときSTASか、またはIPOSの医療者評価、余裕が出てきたらIPOSの患者評価を加えたら更に良くなると思う。沖縄県ではIPOSに向かって進めていくのが良いのではと意見があった。

2. 「がん診療連携拠点病院等の整備に係る指針」改定について

増田委員より、資料11に基づき説明があった。前回と大きな違いは、都道府県拠点病院は県全体の面倒をみる病院、地域拠点病院は二次医療圏のレベルアップを図る病院と定義付けされたことと、がん診療連携協議会の権限および役割が今までの10倍に増えたことだが、沖縄県をベースにしているので、沖縄県での増加は少ないとの事だった。緩和ケアに関しての要点としては、①神経ブロックや緩和的放射線照射等の専門的な緩和ケアの実施体制等を地域で共有し、紹介・逆紹介を積極的に行うこと、②緩和ケアチームに紹介されていない患者についても緩和ケアチームは気にかけること③疼痛の緩和に関しては、緩和ケアチームではなく、主治医が主に対応することの3点となる。その他は時間の関係で省略するので、拠点病院の方は読み合わせをして頂きたいと依頼があった。

また、毎年9月末位に行われる「がん診療連携拠点病院の現況調査現」について、過去に一部の病院で虚偽の報告や、毎年のように項目が増えて厳しくなった時期もあった。そのため今後4年がかりで調査項目を大幅に改定することになったと報告があった。

3. 次回令和4年度第2回緩和ケア・在宅医療部会の日程について

令和4年12月頃 15:00～17:00の間で1時間予定

4. その他

特になし

以上

令和4年度第3回緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキング 議事要旨

日 時：令和4年11月16日(水)16:00~16:55

場 所：ZOOMによるWeb会議

出席者12名：足立源樹（那覇市立病院）、中村清哉（琉大病院）、朝川恵利（県立宮古病院）、野里栄治（北部地区医師会病院）、久志一朗（沖縄病院）、新里誠一郎（浦添総合病院）、笹良剛史（豊見城中央病院）、宮平奈美子【西原実代理】（ハートライフ病院）、林正樹（中頭病院）、友利健彦（沖縄赤十字病院）、神山佳之（南部医療センター・こども医療センター）、増田昌人（琉大病院）

欠席者3名：三浦耕子（県立中部病院）、酒井達也（県立八重山病院）、新屋洋平（西崎病院）

陪席者1名：三井清美（琉大病院）

報告事項

1. 令和4年度 第2回 緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキング議事要旨について

資料1に基づき、令和4年度第2回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨が承認された。

2. 令和4年度 緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング委員名簿一覧について

資料2に基づき、令和4年度 緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング委員名簿一覧が承認された。

3. 令和4年度緩和ケア研修会の報告について

(1) 琉球大学病院 【第1回 2021年9月4日(日)】

資料3-1に基づき、中村委員より報告があった。台風が襲来していたが、影響は少なく開催できた。WEBの利点としては、募集人数を多くすることができること、感染対策も安全にできることがある。その反面、対面の場合はファシリテーターの人数が少なくてもグループを行き来し対応出来るが、WEBだと対応できないため、ファシリテーターの人数が揃わないと難しい。また、仕事をしながらや移動しながら受講されていた先生もいらっしまったため、今後のどのように注意喚起していくかが課題となるとの事だった。

(2) 那覇市立病院 【第2回 2022年9月10日(土)】

資料3-2に基づき、足立委員より報告があった。受講者の初期研修医が37.2℃程の発熱があり、さらにクラスターが発生していた科を回っていた先生だったため、PCRを受検の上、N-95のマスクを装着し、他の受講生と離れたところで受講させた。研修の途中でPCR陰性の結果がでたが、マスクはそのまま装着しロールプレイ等参加させたとの事だった。

(3) 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 【第3回 2022年10月8日(土)】

資料3-3に基づき、神山委員より報告があった。前日のミーティングができなかったため、準備不足だったという意見があったとの事。プログラムについては、患者さんの体験談を初めに持ってきて受講生の興味を引くように工夫した。感想としては、今回、

院内の受講生のみだったが、院外の受講生がいた方がワークショップ等で程よい緊張感が出るのではないかと感じた。来年度も引き続き、少人数・対面で行う予定をしているとの事だった。

(4) 沖縄県立中部病院・沖縄県立八重山病院 共催 【第4回 2022年10月22日(土)】

三浦委員が欠席のため次回の報告となった。

4. 第4回日本緩和医療学会九州支部学術大会について

笹良委員より、日本緩和医療学会九州支部学術大会についてホームページの共有を行い報告があった。来週11月26(土)、大分市「J:COMホルトホール大分」にて開催。今回はハイブリッド形式で行われるとの事だった。

<http://square.umin.ac.jp/kanwa-ks4/>

5. 令和4年度患者の意向を尊重した意思決定のための研修会(E-FIELD)開催について

笹良委員より、資料4に基づき報告があった。今年度も昨年に引き続きWEBで、九州・沖縄地区は10月23日(日)に、参加者35施設・100名で開催された。現在プログラム内容の改定中で次に開催される地区からは試験的に新しいプログラムで研修を行うとの事だった。在宅向けのもは12月18日(日)にWEBでの開催、申し込みは個人となっている。来年以降の開催方法についてはWEB予定だが、一部現地になるかもしれないと報告があった。

また、現在、神戸大学が厚生労働省からの委託により全国で開催しているが、今後、各都道府県に委託することになっている。そのため、E-FIELDの指導者研修会と指導者フォローアップ研修会を開催しファシリテーターを育成することになっており、現在受講者を募集中とのこと。神山委員と後程調整することとなった。

6. 第5回日本GRACE研究会年次大会IN沖縄 について

笹良委員より、資料5に基づき第5回日本GRACE研究会年次大会について報告があった。12月17日(土)、18日(日)に友愛医療センターとWEBの2パターンで開催予定となっており、空席もまだあるためご参加下さいと依頼があった。

7. 「緩和ケアおよび精神腫瘍学 指導者研修会」開催について

増田委員より、資料6に基づき、今回琉球大学病院からは身体2名、精神1名の申込があったと報告があった。

8. 令和4年度地域緩和ケア連携調整員フォーラムの開催について

増田委員より、資料7に基づき、地域緩和ケア連携調整員フォーラム開催について周知があった。

9. その他

特になし

協議事項

1. 令和4年度 緩和ケア研修会の開催について

足立委員より、資料8に基づき緩和ケア研修会の開催について報告があった。浦添総合病院、沖縄病院については現在のところ開催日程未定とのことだった。

2. がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針(研修について)

増田委員より、資料9について報告があった。自施設の診療従事者向けに、自施設を行っているがん対策や、連携体制などを学ぶ研修会を実施することが義務化されたとの事だった。全体的な内容は2割ほど減ったが、指定要件を満たしていない場合の取り扱いについては増えており、指定を取り消しやすくなっている。そのため是非3人程で整備指針の読み合わせを行い、抜けがないようにして頂きたいと依頼があった。

足立委員より、「体制を整備する」という文言が増えたと思うが、何か証拠を残していた方がよいか、と質問があった。増田委員より、証拠をどのように挙げていくかはこれから研究班で検討していくが、大事な所の証拠は出してもらおうことになると思う。研究班の情報は逐次全ての部会・ワーキングにお知らせしますと回答があった。

3. 次回令和4年度第4回緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキングの日程について

2023年2月頃の予定でがんセンターにてスケジュール調整することとなった。

4. その他

増田委員より、診療報酬の改定について各病院で対応をお願いしますと依頼があった。また、好事例があればご教示下さいとの事だった。

以上

第3回沖縄県がん診療連携協議会緩和ケア在宅医療部会 在宅ワーキング議事要旨

日 時：令和4年11月30日（水）16：35 ～ 18：00

場 所：ZOOM（WEB会議）

出席者：8名 宮城愛子（訪問看護ステーションアレグリア）、東恩納貴子（那覇市立病院）、
笹良剛史（豊見城中央病院）、屋比久倫子（八重山病院）、嶺井朝美（北部地区
医師会病院）、高江洲あやこ（那覇市医師会）、仲門文子（沖縄県介護支援専門
員協会）、増田昌人（琉大病院）

欠席者：8名 喜納美津男（きなクリニック）、金城美奈子（宮古病院）、金城隆展（琉大病院）、
荷川取尚樹（花あかり合資会社）、長野宏昭（中部病院）、新屋洋平（西崎病院）、
徳盛裕元（すまいるサポート株式会社）、崎辰子（那覇市役所）

陪席者：2名 有賀拓郎（琉大病院）、三井清美（琉大病院）

報告事項

※本日11月30日は「人生会議の日」となります。そのため喜納先生がFM沖縄の特別番組「ハッピーアイランド人生会議スペシャル」に出演されるためご欠席となりますと宮城委員より報告があった。

1. 令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨
資料1に基づき、宮城委員より令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨の報告があり、が承認された。
2. 令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨
資料2に基づき、増田委員より令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨の報告があり、承認された。
3. 令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨
資料3に基づき、笹良委員より、令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨の報告があり、承認された。
4. 令和4年度 緩和ケア在宅医療部会/在宅WG/研修WG委員名簿一覧
資料4に基づき宮城委員より前回より仲門文子（なかじょうあやこ）様が加入して下さっていると報告があった。
5. 沖縄県緩和ケア研修会2022 開催一覧について
増田委員より、資料5に基づき報告があった。浦添総合病院と沖縄病院は日程検討中とのことだった。
6. 令和4年度 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会(E-FIELD)について
笹良委員より、資料6に基づき報告があった。昨年度に引き続き、今年度も開催方法はWEBとなっている。現在、プログラムの改定を行っており、これから行われる地域は新しい内容になるとのことだった。10月23日に開催された九州・沖縄地区の研修会は、100人程の方が受講、沖縄からは数チーム受講があった。また、今後について、現在は木澤先生が在籍している筑波大学が主体となっているが、再来年度あたりからは事業を各都道府県に

委託し、医師会が主体となる可能性が高い。ファシリテーターを育成するため、来年 1 月 28 日、29 日に指導者研修会を行う予定となっており、各都道府県で開催ができるように進めているとの事だった。

7. 日本緩和医療学会 第 4 回九州支部学術大会について

笹良委員より日本緩和医療学会 第 4 回九州支部学術大会のホームページの画面共有に基づき報告があった。11 月 26 日(土)に現地と WEB のハイブリッド形式で開催された。現地参加者は多くなく、ほとんどの方が WEB 参加だったとのこと。申込は終了しているが、しばらくオンデマンドで視聴可能となっている。学会は滞りなく終了したとの事だった。

https://www.ispm.ne.jp/meetings/branch_kyushu/meeting_individual.html?entry_id=129

8. リレー・フォー・ライフ・ジャパンおきなわ 2022 について

笹良委員より、資料 7 について報告があった。コロナの影響も鑑みて今年度もラジオと WEB 配信による小規模開催とのこと。12 月 10 日(土)はオンラインで講演会、ルミナリエ等あるのでお時間あればご参加くださいとのことだった。

<https://relayforlife.jp/okinawa/>

<https://www.facebook.com/rfl.okinawa.urasoe/>

9. 第 5 回日本 GRACE 研究会年次大会 IN 沖縄 について

笹良委員より、資料 8 の第 5 回日本 GRACE 研究会年次大会 IN 沖縄について、12 月 17 日(土)~12 月 18 日(日)に現地と WEB で開催され、参加料は 2 日間で 5000 円と報告があった。勉強+対話参加+ボディーワークの会となっており、緩和ケアや在宅の関係者以外でも教育関係者や、対人関係で援助されている方など、他の方と関わっている人であればどなたでも参加可能との事だった。現在定員の半数ほどなのでご興味ある方は是非お申し込み下さいと依頼があった。

10. その他

特になし

協議事項

1. 今年度の年間活動計画(アンケート)について

宮城委員より、資料 9 に基づき、11 月 24 日に開催された臨時会議にて今年度はアンケートを行わず、他の方法を考えてはどうかとの結論に達したが、みなさんのご意見をお伺いしたいと提議があった。

高江洲委員より、課題の抽出にあたっての、在宅ワーキングでの最終目的をお伺いしたいと質問があった。

増田委員より、資料 10 を用い在宅医療のロジックモデルを用いて回答・説明があった。最終アウトカムの「在宅医療を希望するがん患者とその家族が、適切な意思決定支援のもと、希望する場所で必要な支援を受けて最後まで満足した状態で生活することができている」というものが在宅ワーキングの最終目的となるのではないかと思う。また、ロジックモデルに記載はないが、行おうとしている手段・方法がその目的にどれだけ効果があるかというインパクト評価も考慮する必要があるとの事だった。アンケートの方法が間違っている

わけではないが、インパクトは少ないのでヒアリングの方が効果的だと思うと回答があった。

高江洲委員より、最終アウトカムを基に、希望した時に適切な意思決定支援を行っているのかどうかをヒアリングに入れていくのはどうかと提案があった。

宮城委員より、アンケートやヒアリングを行う前に勉強会を行ってからかどうかと提案があった。

有賀先生より、前回の臨時会議で金城先生がおっしゃっていた通り、在宅へ移行できないのは我々のコンシェルジュとしての役割が上手くいってないからだと思う。また、初期アウトカム(施策)になっている事柄を聞いても上辺だけの回答になってしまうので、初期アウトカムのもっと左側にあるはずの根本的な在宅医療について、現場の医療者へ植え付けるにはどうしたら良いかを我々は考えないといけない。受け取る側のスタッフも関わってもらい、チームで検討していくべき案件ではないかと思うと意見があった。

笹良委員より、在宅医療の問題は送る側(病院)の問題と受ける側(在宅)の問題、その間の患者さんと家族の問題がある。今は送る側の問題を解決していこうという事だが、問題は在宅ではない所でのACPの主治医の対応、教育の普及などが主なのではないかと思う。また、在宅の医療者と病院の医療者、または在宅の医療者同士でも、お互い何が出来るのか不明であったりするので、コミュニケーションの絶対量が不足しているのではないかとも思う。

ZOOMでも良いので、全県的なSWや訪問介護士や訪問診療の医師へお声掛け年度内にテーマを決めてディスカッションや勉強会を行い、抽出された問題を参加者へアンケートを行うのはどうかと提案があった。また、10名以上だと本音が出ないので、ZOOMのブレイクアウトルームを使用し4名程の人数で意見を出し合ってもらうのがよいと提案があった。

宮城委員より、在宅ワーキングで勉強会を行う事は可能なのかと質問があり、笹良委員よりどこへ案内を送るかにもよるが、増田先生と私と喜納先生、宮城さんの名前で文書を送れば参加して頂ける方も多いのではと回答があった。

有賀先生より、金城先生が指摘されていたが、ケーススタディーにしてしまうと、そのケースの「個人」で考えてしまい、一般化することが難しいため、在宅ワーキングの委員の中でコミュニケーションを取っている、または出しているが取れていない施設とマッチングして、2対2で話し合いを行うのはどうかと提案があった。絶対的なコミュニケーション量はコロナ前と比較して不足しているのは事実であり、スモールスタートでもよいので始めてみてはどうかとの事だった。

東恩納委員より、市立病院は繋ぐ側になるが、繋いだ時にもう少し早く繋いでほしかった、や、関係性が築くのが難しかったという意見をもらう事もあったが、そこに至るまでのプロセスが難しいと感じている。治療・通院方法が増えたため、患者さん側からすると「まだ通える」という思いもあり、医療者としては情報提供はしているが話し合いのタイミングが難しい。また、在宅側も招いて症例を挙げての意見交換会などを行い情報提供はしているが、その後どうやって話し合いをしていくかというプロセスの難しさを感じている。在宅側と病院側でそれぞれ難しさを感じている事を掘り下げていくと沢山あると思う。患者

さんが希望しても家族やサポートしている体制がぜい弱である場合もあり、医療者の情報が不足しているだけではないという現状があると意見があった。

仲門委員より、拠点病院の中で連携したのは琉大病院と中部病院だけだが、中部病院では緩和ケアという形で訪問診療をもっており、訪問診療の先生や主治医の先生を交えてカンファレンスを密に行っていて情報交換も出来ているが、琉大病院との連携で上手くいったことがない。琉大病院の先生は在宅のイメージを持っていない印象と意見があった。在宅でも病院と同じ事ができますよね、という前提で話が進み、在宅の先生が困惑していても、その後やりとりを行ってくれるわけでもなく、結局自宅へ帰せないという事がある。退院支援の看護師さんも在宅の細かいことが分かっていないと思ったとの事だった。

有賀委員より、中部病院は在宅に行く前に在宅の先生とコミュニケーションを取ることができている。琉大病院はそれが出来ていないが、目的とすることは仲門さんがおっしゃってくれたように何が出来ていないか、どうしてほしいかを相手に伝え、こちらに合わせるもらったり、相手に変わってもらえるように促す事。琉大病院に来る患者さんは難しい症例や長い病歴をお持ちの方が来られるため、琉大は自身が変わろうという意識が乏しい。地域連携室では自身の病院の代弁者という認識をもちながら相手の事を考えるよう伝えているが、構成員が替わると理解していたレベルがリセットされてしまう。こういった仕組みは医師以外、連携室や、長くいらっしゃる緩和ケアに関わる医師の方で作った方がよいのではないかと意見があった。

嶺井委員より、在宅で何ができるのが分からないから、出すほうも難しくなっている気はする。事前にどういうことができるか確認する時もあるが、オピオイドの処方が出来ないなど、緩和ケアが上手く行えないことを難しく感じている事がある。

有賀委員より、出す側の視点としては医療をきちんと行えない事を気にしてしまうが、患者さんにとっては、オピオイドを投与して欲しいわけではなく、痛みを取る一つのツールに過ぎない。在宅の先生はオピオイドが使用できない代わりに他の解決策を何か持っているかもしれないので、コミュニケーションを上手く取り、他の手段を聞き出すことができたらいい。おそらく中部病院は院内に在宅の先生もいるのでうまくコミュニケーションができているのではと考えている。

高江洲委員より、コミュニケーション促進のためには合同カンファレンスが良いと思う。那覇市医師会では強化型カンファレンスとして月に1回在宅の先生を交えて議論されている。病院の先生とコミットしたいとおっしゃっているので機会があれば参加されると思う。今月はこれからカンファレンスがあるので、もし今年度在宅ワーキングでもカンファレンスを行うという事であれば協力していきたいとお申し出いただいた。

有賀委員より、コミュニケーションが断絶していると前に進まないのでは、平和的に終われるスキルがあるファシリテーターがいれば一度お互いに言いたいことを言えるような機会があれば良いと思うと意見があった。

東恩納委員より、在宅側と病院側で意見交換会を行うことで、課題が見えてくるのではないかと考えている。ただ、医師の中では意見だけでなら良いが、バトルになってしまう

たら大変なんじゃないかと危惧されている。どういう風に話し合いを進めるのかは気をつけないといけないと思っているとのこと。

宮城委員より、アンケートについてはいったん取り下げ、今後は意見交換会を行うという事で改めて検討するという事でよいかと提案があり、承認された。

2. 来年度の活動計画について

増田委員より資料 10 に基づき説明があった。詳しいロジックモデルは後日送付しお伺いするが、来年度について、最終アウトカムに向かって何をするか、拠点病院にいるがん患者さんが在宅に上手く移行できるようにどうしたらよいか、の計画を立てて頂きたい。最初のところは医療者側から話さないといけないので誰(主治医か、主治医ではない医師か、看護師か、SW か、等)が話すのか、皆さんで 6 つの拠点病院の事を想定して考えて頂きたい。今までの議論を拝聴していると一つ一つ基礎的なことを話し合い、詰める必要があると思うので来年度の計画についてまた別の機会を設けても良いのかと思ったとの事。

3. 在宅緩和コンフォートセットについて

笹良委員より、資料 10 に基づき提案があった。訪問看護ステーションから在宅医の処方する薬が異なる事について時々質問があり、がんの患者さんと非がんの患者さんの緩和的在宅、高齢者の生活の場としての在宅の薬が大幅に違っていたりして現場が混乱しているようだと言った。最終的なコンフォートセットの基本的なものを共有できるような話し合いを意見交換会で出来たらよいと思うと提案があった。何をベースにするかの方法はいくつかあるかと思うが、琉大や医師会の HP に医療者用の緩和ケアマップとして掲載していただいてもよいと思っているとのことだった。

4. 次回の在宅ワーキングの開催日程について

2023 年 3 月 29 日(水) 16:30~開催で決定しているが、増田委員より、勉強会または来年度の計画についてはその前に話し合った方が良いので、こちらからご連絡しますとのことだった。

5. その他

笹良委員より、2021 年 5 月号の緩和ケアの雑誌に「ACP に関するもやもやを整備するための提案」が掲載されているが、その記事を書いた聖隷三方原病院の森田先生が、今週金曜日にセミナーを行う。中島先生が座長、森田先生が「アドバンスケアプランニングはこのままで良いのかを問う：今後に向けての 6 つの提案」という特別講演をされるとのこと。在宅ワーキングで重要な話題となるので、チラシ等あれば後程共有しますとのことだった。

以上

令和4年度 第3回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

日 時：令和4年12月7日(水) 16:05 ~17:25

場 所：琉球大学病院がんセンター(ZOOM 会議)

出席者7名：笹良剛史(豊見城中央病院)、野里栄治(北部地区医師会病院)、中島信久(琉大病院)、安次富直美(琉大病院)、足立源樹(那覇市立病院)、名嘉眞久美(がん患者会連合会)、増田昌人(琉大病院)

欠席者6名：屋良尚美(県立中部病院)、中村清哉(琉大病院)、酒井達也(八重山病院)、朝川恵利(宮古病院) 三浦耕子(県立中部病院)、栄昌美(沖縄県健康長寿課)

陪席者3名：安座間由美子(中部病院)、有賀拓郎(琉大病院)、三井清美(琉大病院)

報告事項

1. 令和4年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

資料1に基づき、令和4年度第2回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨の報告があり承認された。

2. 令和4年度 緩和ケア・在宅医療部会、在宅WG、研修WG 委員名簿

資料2に基づき、各委員の名簿について報告があった。

3. 令和4年度 緩和ケア研修会開催日程一覧表について

資料3に基づき、緩和ケア研修会開催日程の報告があった。

4. 令和4年度 緩和ケア研修会の報告書について

笹良委員より、資料4-1に基づき、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター(第3回10月8日開催)について報告があった。

安座間先生より、資料4-2に基づき、沖縄県立中部病院・八重山病院(第4回10月22日開催)について、コロナの濃厚接触者等により欠席があったこと、南部医療センター・こども医療センターと同様に、動機付けのために「がん患者等への支援」を「e-learningの復習・質問」の後へとプログラムの変更をしたこと、感染対策として、パーテーションの設置や、グループワークの際にゴーグル着用を行ったと報告があった。また、ポストアンケートで点数が低かった項目については、各自復習できるように解説付きの資料を配布したとお話があった。

5. 令和4年度 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会(E-FIELD)について

資料5に基づき、今年度のE-FIELD開催について笹良委員より報告があった。今年は木澤先生が異動された先の筑波大学主幹で開催され、プログラムについては、今後改定されたものを確認しつつ行われるとの事だった。九州・沖縄地区の病院向けの研修会については10月23日に開催され、34施設程の参加、在宅向けは12月18日に開催予定なっているとの事だった。また、指導者研修会を開催し、3年後をめどに各都道府県でファシリテーターや講師を10名程育成し、その後、事業を都道府県へおろすような形で進んでいると報告があった。今回の指導者研修会は5名程参加予定となっており、毎年指導者の育成を図っていく予定との事だった。

6. 日本緩和医療学会 第4回九州支部学術大会について

笹良委員より、日本緩和医療学会 第4回九州支部学術大会のホームページより報告があった。11月26日(土)に大分にてハイブリッド形式で開催された。申し込みは済んでいるが、オンデマンドの配信は12月14日までとなっているとの事だった。次回、第5回は鹿児島で開催予

定と情報提供があった。<http://square.umin.ac.jp/kanwa-ks4/>

7. 「沖縄県内のがんに関する医療情報」のがんじゅうネット掲載について

笹良委員より、後程協議事項で報告しますとの事だった。

8. 第5回日本GRACE研究会年次大会 IN 沖縄について

笹良委員より、資料6に基づき12月17日(土)、18日(日)に友愛医療センターにてハイブリッド形式で開催されるので、参加者ご希望の方はお申し込み下さいと依頼があった。

9. 2022年度緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者研修会について

増田委員より、資料9について、琉球大学病院では3名受講予定と報告があった。また、緩和ケア研修会がスムーズに行えるよう各病院からも中堅・若手の先生に受講をお願いしていただきたいと依頼があった。

希望される先生はどなたでも受講できるので是非受講いただき、継続的な緩和ケアの活動ができるようご検討をお願いしますと笹良委員からも依頼があった。

10. 「がん診療連携拠点病院等の整備に係る指針」改定について

増田委員より、資料8について、6つの拠点病院で行われる現況調査と整備指針を照らし合わせたので、拠点病院以外の先生方もご確認いただきたいと依頼があった。

資料37 ページNo.4について、他の拠点病院は努力目標だが、都道府県拠点病院については治療開始前までに全てのがん患者さんは相談支援センターに行くことが義務付けられたと説明があった。琉球大学病院では、12月1日からがん相談支援センターの外來枠を新設し、支援センターへ行っていない人については、外來看護師や会計担当者が把握できるシステムを作ったので、実施状況については次回お伝えしますと報告があった。

資料37 ページNo.5、緩和ケアにおける連携協力に関するカンファレンスを月1回程度定期に開催すること、について、年明けから回数を増やして行うのでご参加頂きたいと依頼があった。

中島委員より、ホスピスの緩和ケア交流会を今後WEBで復活する予定はないかと質問があった。笹良委員より、話は上がっているが進んでいないと回答があった。

中島委員より、以前は各病院で持ち回りにより開催していたが、当番病院の負担になってしまう。そのため、テーマを決めて窓口を広く設け、ディスカッションできるような場を年に数回出来ると各施設の顔を繋ぐ機会にもなると思うと意見があった。

笹良委員より、今後どうするかは年度内に一度打ち合わせを行い、できれば初めは琉大から始めたらどうかと提案があった。

増田委員より、カンファレンスを月1回開催する義務があるのは都道府県拠点病院の琉球大学病院のみとなっている。他の拠点病院は資料に記載されているような文言はないが、地域の連携の役割として年1回以上の開催との事でチェックが入るはずである。また、3年間はこの項目は残るので、要件を満たすように努めましょうと報告があった。

安次富委員より、現在カンファレンスについて、月1回行う前提で案を作成しているが、講師依頼予定の先生の都合などで開催できなかった場合に交流会を入れて数を合わせられると有難いと意見があった。

11. その他

特になし

協議事項

1. 痛みのスクリーニングとモニタリングデータ抽出について

有賀先生がご退出されたため報告なし。

2. 緩和ケアマップ新規掲載依頼先について

増田委員より、資料9に基づき、緩和ケアマップ作成・掲載も都道府県拠点病院の義務となっているが、新規依頼する医療機関についてどの様に絞ったら良いか議題提起があった。

笹良委員より、地域医療支援病院となっている病院でも訪問診療を持っているのであれば掲載しても良いのではと意見があった。

野里委員より、北部地区医師会病院では訪問診療は今年から行っているが、部門としては成立しておらず、24時間対応や、訪問看護も行っていない。緩和ケアマップには今のところ掲載できる状況ではないと説明があった。

中島委員より、中頭病院はクリニックの方で対応していると情報提供があった。

笹良委員より、中部病院や浦添総合病院も対応しているはずと情報提供があった。

中島委員より、緩和ケアマップのエンドユーザーについて質問があった。

増田委員より、連携室ではないかと回答があった。がんセンターとしてきちんと対応できる施設の絞り込みを行いたい、掲載基準をどうしたらよいか相談したいとのことだった。

笹良委員より、強化型の在宅支援診療所は残し、複数の麻薬を使用できることや、皮下注射ができることを最低ラインとする。また24時間対応できず、がん患者の看取りにいけない所は外した方がよいと意見があった。

増田委員より、アンケートの質問を5つぐらいにまとめたいと依頼があった。

笹良委員より、在宅ワーキングの議題で取り上げたらどうかと提案があった。

増田委員より、在宅ワーキングの委員へメール審議を試みますと意見があった。

3. 都道府県がん診療拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会からのアンケート内容について

増田委員より、資料10について、拠点病院の整備指針について会議があるので、「緩和ケアの提供体制について」国がんからアンケート調査があったと説明があった。アンケートの項目は現況調査や、指定要件に入ってくる重点項目になるため、確認して頂きたいと依頼があった。また、緊急放射線治療等、自施設で出来ない場合の他施設への提供体制については文書で作成しておいた方がよいと思うと意見があった。

4. 次回令和4年度第2回緩和ケア・在宅医療部会の日程について

令和5年3月頃 15:00～17:00の間で1時間予定

5. その他

増田委員より、令和3年度第5回 緩和ケア在宅医療部会 在宅ワーキングにおいて、事実誤認をしての発言をしてしまった。その為、中島先生を始め多くの方にご迷惑をおかけしてしまった。今回お詫びして発言を修正しますと謝罪があった。また、この件については文書にて皆様へメールしていますので、ご確認をお願いしますと報告があった。

中島委員より、該当の議事要旨の訂正依頼があったことを受け、訂正後の令和3年度第5回緩和ケア在宅医療部会 在宅ワーキング議事要旨を次回の本会議にて報告事項とする。

以上